

令和5年度「非違行為防止研修」実施計画書及び実施報告書

※白黒反転しているセルは報告段階で記入。回数、月名等は数値のみ半角で記入。

郡市名	北安	市町村名	小谷村	学校名	小谷小学校	校長名	
学校種(小:1,中:2,特支:3,義務:4)		1	記入者職名	教頭	記入者氏名		
電話番号	0261-82-3522		メールアドレス		otaries@otari.ed.jp		
非違行為防止委員人数	5	非違行為防止委員会主任職名	教頭		非違行為防止委員会第三者委員役職名	PTA会長	
非違行為防止委員会実施予定回数	3	非違行為防止委員会の実施回数	3	非違行為防止委員会実施月	4,7,11		
非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善予定定期限月	3	非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善月	3	1人の教職員当たりの校長面談予定回数	3		
1人の教職員あたりの校長面談実施回数	3	1回の校長面談の平均実施時間(分)	20	校長面談実施月	5,9,2		
相談窓口の利用促進にかかわる工夫	学校だより、学校要覧での紹介 校内掲示板への表示					相談窓口利用実績	9
非違行為防止研修内容・校内ルールの公表方法	ホームページ掲載	公表予定回数	4	公表回数	4	公表実施月	5,9,12,3

○本年度の非違行為防止に関わる目標

目標	児童や自分の家族を悲しませないために、教職員が教育公務員としての自覚と責任をもって、社会規範に反する行為を絶対に行わないようにする。 一人に負担を負わせることなく、教職員が互いに支え合い、信頼し合い、助け合える温かい関係づくりを築く。
----	--

○非違行為防止研修の実実施計画と実施報告

実施月	非違行為防止研修実施計画	実施報告(教職員の参加の様子や反応、感想など)	研修の回数(下記に回数を入れてください)							
			講演・講習	マニュアル等作成	チェックリスト作成・実施	校内体制整備	資料等読み合わせ	協議・体験・演習	その他	
4月	・学校長を講師として、交通事故防止や交通事故に遭ったときの対応を学ぶと共に、全職員が家族に向けた手紙形式で非違行為防止の誓いを記述する。	・全員で「事故が起きたときの対応マニュアル」を確認した。「誓い」には、「帰りが遅いと心配してくれる夫と息子を裏切るような行為は絶対しません」など、心のこもった言葉が書かれていた。		1	1			1		
5月	・セクシャルハラスメントの事例をもとに、小集団で防止に向けた管理体制や個人が守るべきことを話し合い、確認する。	・学校長が実際に起きてしまった事例について話し、「相手の気持ちを想像することが大事だと思った」「そのようなことが起こりにくい環境を作ることも大事」などの感想が出された。	1				1			
6月	・職員会議での学校長の指導から、非違行為防止6策を再確認し、児童や保護者に信頼される教職員としてのあり方について連学年グループで話し合う。	・子どもへの暴言の事例を読み合わせた。「やっているのが学校の中心的存在の先生だと言いつらい。」「管理職に相談すべきだった。」「自分も気をつけよう。」などの感想が出された。					1	1		
7月	・スピード違反や交通事故の事例について読み合わせをし、懲戒処分の指針について再確認する。	・「30kmオーバーはやってしまう可能性がある。」「人身事故だと過失2割でも処分の対象となると初めて知った。」「夏休み中にも気をつけなくてはならない。」などの感想が出され、意識を高めることができた。			1		1			
8月	・外部講師を招いた職員のICT研修を通して、共同編集や情報発信における個人情報保護、著作権について学ぶ。誓いを再確認する。	・中学の先生を招いて、ICT研修を行った。共同編集や著作権について熱心に話を聞く姿が見られた。「情報漏洩を防ぐため、クラウドに上げてはいけないものが分かった。」などの感想が出された。	1	1			1	1		
9月	・パワーハラスメントの判断基準3要素や6つの行為類型、アンガーマネジメントを見直し、体罰根絶のためのセルフチェックシートで各自が自分の言動を振り返る。	・パワーハラについての知識「相手から抗議があるとは限らないこと」「パワーハラは懲戒処分の対象となる可能性があること」などを確認した。「自覚がないまま行われていることがあるので気をつけたい。」と感想が出された。			1		1			
10月	・チェックシートを用いて飲酒運転、スピード違反の基礎的知識を再確認した後、「非違行為の根絶に向けて」の事例から要因について学び、防止策を考え合う。	・非違行為があった場合の処分を再確認したことで、「減給が将来にわたってどのくらい影響があるか分かった。」「飲酒は次の日も気を付けなくてはならない。」と感想が出された。			1		1			
11月	・人権教育旬間の開始に合わせて、信用失墜行為や体罰の事例をもとに、自分の人権意識や言動を振り返り、児童や保護者への対応を学ぶ。	・事例を読み合いながら、体罰と共に暴言にも気を付けることを確認した。「自分ではそのつもりはなくても傷つけてしまうことがあるから気を付けたい。」という感想が出された。				1	1			
12月	・学校評価の結果を共有した後、小グループで自分の日頃の授業やよりよい授業のあり方、児童への関わり方について意見交換し意思統一を行う。	・児童への指導で、温かな関わりができていく振り返った。「つい感情的になって、威圧的な態度を取ってしまうこともあるので気を付けたい。」という感想が出された。					1	1		
1月	・小グループに分かれて、日頃から意識しているパワーハラスメント防止の取り組みについて、具体例を通してそれらを防止する策を学ぶ。誓いを再確認する。	・パワーハラスメントに加え、「教室マルチリポート」に当たる言葉を確認し、子どもへ接し方について考えた。「つい発してしまう言葉が人を傷つけることもある。気を付けたい。」などの感想が出された。			1		1			
2月	・情報媒体、個人情報の紛失防止マニュアルや校内管理体制を見直し、チェックシートを用いて各自が管理方法を再確認する。	・他郡での紛失事例を参考にUSBや個人情報の管理の仕方を再確認した。著作権についても扱った。「車内には絶対に置かないようにしたい」という感想が出された。	1	1		1				
3月	・検証報告書をもとに連学年のグループに分かれて非違行為防止マニュアルの見直しについて検討し改善を行う。	・連学年でマニュアルを確認した。「1年に一度は見直し、気を引き締めることが大事だと思う」という感想が出された。USBや文書の管理に一層気を配ることを確認した。			1		1	1		
合計			29	3	4	5	3	9	5	0

○実施した研修に対する非違行為防止委員(第三者の委員)の感想

先生方がこのような様々な研修していると知り、保護者としてありがたく思いました。先生方も大変かと思いますが、小谷から非違行為を絶対出さないよう保護者としてできることはやっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

※適宜行追加してください。記入できない場合などは、資料を添付してください。